



金融という現実

令和6年7月24日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

労働は唯一資本の創出を得る現実である。金融という投資はその搾取なのである。

この真実は現在の通貨価値と物価の相違性への正しい理解なのである。これらは国際金融グループの支配する世界の真実なのである。

これらは新資本主義という現実が、労働への正しい分配とともに、経済と金融の新しいルールを形成することができることを意味するものである。

これらは来たるべきデジタル経済やデジタル通貨における現実において、健全で公正な経済の枠組みの形成を提案できるのである。

これらは、日本における現実の貧困さへの正しい説明なのである。それは西洋という現実がこれら金融と投資という現実を完全にコントロールし経済の支配を有することを意味するものである。

これらの絶対的な皮肉は、渋沢栄一翁が提唱した、経世済民という思想において日本企業の基盤はこれら社会と倫理性であるという現実を放棄した今日の経済の現状とともに判断を求めることができる。

これら働くことへの美徳はこれらマネーゲームのもの否定されるものであるが、新資本主義という思想が、働くことと公正な富の分配を実現できるならば、これら日本の美徳は決して否定されるものでない。

これらはベーシックインカムというシステムがこれら日本の風土基盤において最も適合するものであることは、その東洋という自己ルーツとともに考えることなのである。

これらは決して過去への回帰でなく、新しい技術文明における公正なルールと基盤における未来という現実の創造であることは提示できるものである。